

札幌市自立支援協議会における 課題整理の取組状況

今までの課題整理の試み

平成18年10月設置から平成19年 委託相談支援事業所の第三者評価、ガイドブック作成

平成20年 先行して2区に地域部会を設置【地域の課題は地域で】

平成21年 次に3区に地域部会を設置【地域の課題は地域で】

平成22年 残り5区に地域部会を設置【地域の課題は地域で】
地域部会の代表者が集まり課題を抽出する
「地域部会調整会議」を開始

平成23年 10区に地域部会が立ち上がったが、その成熟度に差があり、
地域部会調整会議も課題抽出・解決の機能を発揮できない

平成24年10月 まちの課題整理プロジェクトチーム発足、課題整理の仕組みを決定

平成25年 まちの課題から3つのテーマで協議会からの提言としてまとめる

平成26年 3つのテーマの取り組みを進め、新たに3つのテーマ別に課題整理中

ここで一度、市全体での
課題整理に足踏み…
しかし、課題抽出の
意識は徐々に…

まちの課題整理プロジェクトチームの創設

- ▶ 『地域部会調整会議』に代わる課題整理機能の検討
- ▶ 少ないメンバーで内容の深い検討と方向性を確認
- ▶ 協議会委員から自薦他薦でメンバーを募り7人でスタート



まちの課題整理プロジェクトチームの創設

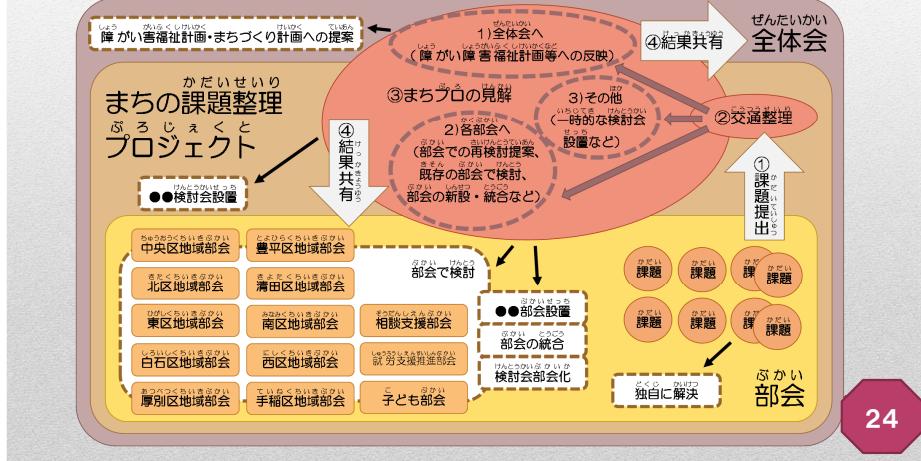
まちプロの
目的

(1) 提出された課題を整理・検証し、
解決へ向けた場へ交通整理する

(2) 課題整理ビジョンの共有

まちの課題整理プロジェクトチームの創設

課題整理の方法



24

まちの課題整理プロジェクトチームの創設

ツールの開発

No.	事例、問題提起、囲いごと	課題	まちの課題整理プロジェクトチームとしての見解	結果
例	誰が何を困っているのか? ○○が○○。 ○○が必要	○○という課題がある ○○が必要	誰が何をいつどのように	まちの課題整理プロジェクトチームの見解を受けた結果、○○部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。
			<p>◆ 簡単に地域の課題を出してもらうため、内容はシンプルに！</p> <p>◆ 自分たちがまちプロに上げた課題がどうなったかわかるように！</p>	

24

まちの課題整理プロジェクトチームの創設

◆平成25年2月に『まちの課題整理学習会』を開催

- 課題整理ビジョンを協議会全体で共有
- まちプロの目的、課題整理の方法、ツールの紹介
- 取り組みが進んでいる部会の課題抽出手法を学ぶ

24

課題整理の本格始動

◆とにかく上から順番に課題整理を開始

- 課題一つ一つを検討し、情報を持ち寄り、役割分担して、交通整理の素案を作成
- 課題を提出した部会とも途中経過をやり取りし、現在の進捗状況を見えるように
⇒提出した部会へのフィードバックを意識

25

課題整理の本格始動

◆3つのテーマで課題整理をまとめることに

(1)ヘルパー技術向上のための研修会

(2)教育と福祉の連携に係る課題検討会結果

(3)市営住宅を含む住まいに関する課題整理

25

課題整理の本格始動

(1)ヘルパー技術向上のための研修会

【課題の概要】(課題通し番号1)

・ヘルパーの技術・技能について、先進的・新しい方法や手法、支援の技術等が求められている。そもそもヘルパーを養成する研修の場が少ない、現場での人材不足が深刻」といった困りごとがある

【課題解決に向けた方向性】

- ◆新たな職業や既存の社会貢献の活用
- ・市町村として研修を行う必要性がある
- ・特に障がい児童の支援を学ぶカリキュラムが少ない
- ・各区地域部会において講師や講師候補等が集まり、勉強会を開催
- ・これからヘルパーを育む学生等に対する研修会開催、PRイベント
- ◆制度の充実
- ・ヘルパーの登録登録地位の整備し、制度改訂
- ・事業所の自主的な研修に補助が出る仕組み

【現在の取り組み状況】
(東区地域部会が担当)

★今年9月にヘルパー人材確保のシンポジウム開催

同時に、ヘルパーの仕事の魅力を紹介するDVDを作成

★3月にはヘルパーのスキルアップ研修第1回を開催予定

年間を通して体系的にスキルアップが図れる研修を検討する

★障がい福祉課も注目し、今年ヘルパーの魅力を伝える説明会を実施予定
次年度以降にサービススキルアップ研修開催ための予算を要求中

25

課題整理の本格始動

(2)教育と福祉の連携に係る課題検討会結果

【課題の概要】(課題通し番号2)

- ・義務学校の教員に教諭後等がうこごとを認めたいが、家庭は仕事等で送迎できない
また、登校をしている事実が隠されており、移動等も問題で利用できない
- ・移動困難者の通学が保障されており、また地下鉄駅構内の場所への移動が不便
- ・障がい児の通学に関して、移動の実証が必要な場合、家庭等が移動できない場合の支援の実証の必要性

【課題の概要】(課題通し番号3)

- ・学校内の移動などを支援してくれる県うきょうを接している。学校でも接してくれたが見つからない

【課題解決に向けた方向性】

- ◆新たな職業や既存の社会貢献の活用
- ・制度改正による障がい者の就業支援等の実施を活用
- ・移動困難者への対応をより多く目立てる
- ・運送会社の運送などを組むことで、運送の実証ができないか
- ・くもむりうきょうの活用

【課題解決に向けた方向性】

- ◆新たな職業や既存の社会貢献の活用
- ・学校内の支援が実証にならないよう、対象のうきょうが「実証して関わる仕組み」
・見つけたうきょうに加え「からだのうきょう」も「学習者と介助者の支援を認める」

【現在の取り組み状況】
(子ども部会が担当)

★11月18日に平成26年度第1回としと課題検討会を開催

メンバーの幅を広げて、言いつ放しだけではない、実効性のある検討を
2月10日に教育・福祉・医療の連携に向けた実践報告とフォーラムを開催

25

課題整理の本格始動

(3)市営住宅を含む住まいに関する課題整理

【課題の概要】(課題通し番号3,8,29)

- ・県うきょうは、障がいのある方の住むところが少なくまた品質も少ない。また、空き部屋の情報がつかめず活用できない
- ・精神障がいのある方の住まいに関する支援において、移動困難度が障がいをオニラクにするおそれ(精神障がい者の問題がしつらくなる)、賃貸会社の審査が甘らぬ(見づらい)
- ・札幌市営住宅条例第2号に規定する精神障がい者、知的障がい者を単身入居
条件から除外しているのが大きな問題である

【課題解決に向けた方向性】

- ◆新たな職業や既存の社会貢献の活用
- ・各区地域部会でまいにち開催する勉強会や懇親会を行う
- ・各部会から住まいの課題に開心のある方を集めてもらい、住まいに適する研修の実施や移動困難者等に連絡してもらうためのパラレントの育成などを行う
- ◆制度の充実
- ・市営住宅の運用を負担し、単身の解消、既存の障がい者でも入居できるようにする
- ⇒まちの課題整理プロジェクトチームとしてまとめた課題検討17の「こども職業、障がい者移動支援事業における市営住宅に関する相談例」、障害者の「住まい」について、市営住宅の精神、知的障がい者の「単身入居の検討窓口」となっている担当者へ情報提供した

【現在の取り組み状況】
(中央区地域部会が担当)

★今年9月に市住宅課を招いて市営住宅の勉強会を開催

★12月に「住まい」をテーマに同様に検討している他の地域部会と一緒に、

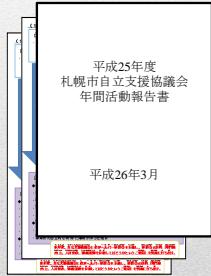
「住まい」課題の現状の取り組みについて情報交換

※市営住宅への単身入居は制度が改正し、今年から認められている

25

課題整理の本格始動

3つのテーマでまとめた「課題解決の方向性」を
自立支援協議会年間活動報告書と一緒に市へ『提言』



協議会として取り組んできた活動を知ってもらうとともに、
今後の施策に参考にしてもらうために報告・提言をする

25

課題整理のスピードアップ

(4) 重複障がいに関する課題の整理に係る有期プロジェクトについて

【課題の概要】(課題番号番号: 27, 28, 44, 52, 60)
・重複障がい(既往病歴・既往障がい)をもつ方の通所施設や介護施設がなかなか見つからない
・医療機関で重複障がい(医療機関の対象ではないと報酬単価が低く、なかなか受け入れてもらえない。また、重複病歴や医療介護が扱っていないが、医療機関はそれに扱っていない。
・看護・介護・医療機関がある方がうらやましく感じていたが見つからない。また、利便性のある場所がない
・難と笨の介護生活を維持できる重複の施設が不足している
・医療機関や施設で重複障がいの扱いが必要な状態だが、重複病歴がつかないために判断できない。
・介護・看護・医療機関が見つからない・看護・介護の実績削減の構築



【課題解決に向けた方向性】

看護機関のプロジェクトを立ち上げて、課題を整理していく。その際には以下に注意する。
・重複障がいにも様々な種類があるため、序文から重複障がいに整理する
・実施計画の内容が複数にならないようよく検討して実施する
・あるとなるのは医療機関とのつながり、この部分をどうするか検討
★あせもタクシードル送り介護事業所及び訪問看護ステーションの実態調査を実施
★うらかくタクシードル現在の事業の精査・検討を行いつづる、新規事業の検討も

【現在の取り組み状況】
(まちプロ直営)

★12月に医療、福祉、当事者等のメンバーが集まり、プロジェクトを発足
特に医療の現状把握と現在の事業の精査、新規事業の可能性を探る

26

課題整理のスピードアップ

◆メンバーの増員とカテゴリー分け

- ▶ 地域部会から4名のメンバーを増員
交通整理する人を増やすことにより、課題整理のスピードアップ。さらにまちプロの状況を地域で伝えてもらうことも目的に
- ▶ 同種の課題をテーマでカテゴリー分け
テーマ（移動、重複、行政の仕組み…）で分けることにより、複数課題を一体的に整理してスピードアップ

26

課題整理のスピードアップ

(5) 移動に関する課題の整理について

【課題の概要】(課題番号: 41, 5, 9, 16, 19, 42, 43, 18, 22, 26, 48, 61, 62)
・移動支援の対象者及び対象となる外出路線を整理してほしい
(医学での判断、専門機関等の場合は対象者が限定されすぎているなど)
・通院に利用できる送迎サービスの充実?
・移動困難者の通院・通勤・通所が困難でない。送迎付き事業所が増えるような施策が必要
・移動支援の運営実績に対応してくれる事業者が少ない
・送迎に関する運営での評議について、送迎所までの移動が困難な人がいる
・質問が駆け足での質と量の問題の構成、多様の経験、市民への連携
・電動車いすでの冬季における外出行き
・移動支援の対象者は外出の際に必ず身体介護が必要となることから、身体介護者、誰という基準は必要ないのではないか。



【課題解決に向けた方向性】

◆障がい福祉課から移動支援の実績等情報を提供を受け、既存事業の検証を含めて、検討を継続する。(第2回監修会で協議会有志による検討の場を作ることは検討済)
◆一方、まちの課題整理プロジェクトとして、議論を続けてきたが、課題が複数多岐にわたるため、新規事業の可能性も含めて、大学等専門機関への研究をお願いする可能性を探る。

【現在の取り組み状況】
(まちプロ直営)

★まずは移動支援を中心に現状のサービス実施状況等を提供してもらう
それを踏まえて、どのように課題整理を進めるか再度検討する

26

課題整理のスピードアップ

まちの課題整理プロジェクトで検討している課題について、『さっぽろ障がい者プラン』の一部改訂に反映

提案

さっぽろ障がい者プラン
一部改訂

協議会の委員を障がい福祉計画の検討会議メンバーとして送り出し、まちの課題整理プロジェクトで交通整理している課題の内容を中心に、一部改訂に取り入れてもらうため、提案

まちの課題整理プロジェクトのこれまで

〔平成24年度〕

まちの課題整理プロジェクトチームの発足 ⇒課題整理の目的、方法を決定し、全体で共有

【平成25年度】

試行錯誤しながら課題整理を進める

⇒ 「地域の課題」から「市への提言」としてまとめる

〔平成26年度〕

メンバー増と手法の工夫

⇒課題整理のスピードアップと施策提案へ